



# Sun StorEdge™ 6920 システム ご使用にあたって

---

Release 3.2

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-2119-10  
2007 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Solstice DiskSuite、Sun Cluster、および Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。Legato、Legato のロゴマーク、および Legato NetWorker は、Legato Systems, Inc. の登録商標です。Netscape、Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun StorEdge 6920 System Release Notes Part No: 820-1668-10 Revision A
-----	--



# 目次

---

Sun StorEdge 6920 システム	
Release 3.2 ご使用にあたって	1
Release 3.2 の新機能	2
ツリーを使用したナビゲーションフロー	2
マッピング概要表	2
グラフィカルな警告アイコン	3
処理のログの表示	3
StorADE アラームインタフェース	3
4-GB SAN のサポート	3
サポートされるソフトウェアとハードウェア	4
サポートされる Web ブラウザ	4
サポートされる追加のデータホストソフトウェア	5
サポートされるファイバチャネルスイッチ、HBA、データホスト、およびオペレーティングシステム	6
サポートされる言語	6
Release 3.2 へのアップグレード	7
サポートされているアップグレードパス	7
システム利用上の制限	7
リリースのマニュアル	8
Release 3.2 の既知の問題	10

Release 3.2 に該当しないその他の既知の問題	11
ソフトウェアの問題点	12
構成および要素管理ソフトウェア	12
データサービスプラットフォームのファームウェア	13
Storage Automated Diagnostic Environment	13
その他	16
既知のマニュアルの注意事項	21
一般的なマニュアルの注意事項	21
国際化	25
システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正	25
完全停止後のシステム復元	25
整合性グループ内での複製セットの合成	26
『Best Practices Guide』の訂正	27
リモート複製	27
SSCS CLI のマニュアルページの追加	28
サービスに関する問い合わせ先	29

# Sun StorEdge 6920 システム Release 3.2 ご使用にあたって

---

本書には、製品マニュアルの発行時には入手できなかった Sun StorEdge™ 6920 システムソフトウェア Release 3.2 に関する重要な情報が含まれています。本書をお読みになり、システムソフトウェア Release 3.2 を実行している Sun StorEdge 6920 システムのインストールおよび動作に影響を与える可能性がある問題や要件を確認してください。

この文書は、次の節で構成されます。

- 2 ページの「Release 3.2 の新機能」
- 4 ページの「サポートされるソフトウェアとハードウェア」
- 7 ページの「Release 3.2 へのアップグレード」
- 7 ページの「システム利用上の制限」
- 8 ページの「リリースのマニュアル」
- 10 ページの「Release 3.2 の既知の問題」
- 12 ページの「ソフトウェアの問題点」
- 21 ページの「既知のマニュアルの注意事項」
- 29 ページの「サービスに関する問い合わせ先」

# Release 3.2 の新機能

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.2 には、次の新機能が追加されています。

- ツリーを使用したナビゲーションフロー
- マッピング概要表
- グラフィカルな警告アイコン
- 処理のログの表示
- StorADE アラームインタフェース
- 4-GB SAN のサポート

この節では、これらの機能について簡単に説明します。詳細は、製品のマニュアルを参照してください。

## ツリーを使用したナビゲーションフロー

インタフェースの左側の区画にナビゲーションツリーが表示されます。このナビゲーションツリーを使用してフォルダやページの間を移動できます。

ナビゲーション区画の最上位には、次のリンクが表示されます。

論理ストレージ: 「ボリューム」、「スナップショット」、「複製セット」、「仮想ディスク」、「プール」、「プロファイル」、「ドメイン」の各ページへのリンクが表示されます。

物理ストレージ: 「イニシエータ」、「ポート」、「アレイ」、「トレイ」、「ディスク」の各ページへのリンクが表示されます。

マッピング: 「マッピングの概要」ページが表示されます。

外部ストレージ: 「外部ストレージの概要」ページが表示されます。

ジョブ: 「現在のジョブ」ページと「過去のジョブ」ページへのリンクが表示されます。

管理: 「一般設定」、「ライセンス」、「ポートのフィルタリング」、「通知」、「処理のログ」の各ページへのリンクが表示されます。

## マッピング概要表

マッピング概要表では、現在のボリュームとイニシエータのマッピングを確認し、またスナップショットボリュームからイニシエータへのマッピングを作成できます。

## グラフィカルな警告アイコン

オブジェクトの状態がすぐわかるようにアイコンが表示されます。状態には、クリティカルなエラー、マイナーエラー、不明な状態などがあります。

## 処理のログの表示

処理のログには、システムでユーザーが開始して実行された処理が時系列に表示されます。Sun StorageTek Common Array Manager インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) から開始された処理が含まれます。

## StorADE アラームインタフェース

新しいページが要求されたとき、または既存のページが更新されたときに、マストヘッド内のアラーム数がすぐに取得されます。

## 4-GB SAN のサポート

6920 システムを 4-GB SAN 環境で使用できるようになりました。

# サポートされるソフトウェアとハードウェア

次の節で説明するソフトウェアとハードウェアのコンポーネントは、Sun StorEdge 6920 システムで動作することがテストおよび確認されました。

- 4 ページの「サポートされる Web ブラウザ」
- 5 ページの「サポートされる追加のデータホストソフトウェア」
- 6 ページの「サポートされるファイバチャネルスイッチ、HBA、データホスト、およびオペレーティングシステム」
- 6 ページの「サポートされる言語」

## サポートされる Web ブラウザ

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.2 は、表 1 に示す Web ブラウザをサポートしています。

表 1 Sun StorEdge 6920 がサポートするブラウザ

クライアント OS	サポートされるブラウザの最低バージョン
Microsoft Windows 98、 Windows XP、Windows 2000、 Windows Server 2003	Microsoft Internet Explorer 5.5 Mozilla 1.4 Netscape Navigator 6.2 Firefox 1.0
Solaris™ 8、9、10 (Sun SPARC および x86 プラット フォーム)	Mozilla 1.4 Netscape Navigator 6.2 Firefox 1.0
Apple Mac OS X	Mozilla 1.4 Firefox 1.0
Red Hat Enterprise Linux Application Server 2.1	Mozilla 1.4
SuSE Linux Enterprise Server 8.0	Mozilla 1.4
Hewlett Packard HP/UX 11	Mozilla 1.4
IBM AIX 5.2	Mozilla 1.4

## サポートされる追加のデータホストソフトウェア

表 2 に示すソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を持つデータホストで使用するための互換性があります。

表 2 サポートされる Sun データホストソフトウェア

ソフトウェア	最低バージョン
Sun StorEdge Enterprise Storage Manager	3.0.1
Sun StorEdge Availability Suite™	3.0.1
Sun StorEdge Enterprise Backup Software	7.1
Solstice DiskSuite	4.2.1
Solaris Volume Manager ソフトウェア (Solaris 9 オペレーティングシステムに付属)	-
Sun StorEdge QFS	4.0
Sun StorEdge SAM-FS	4.0
Sun™ Cluster ソフトウェア	3.2、update 3

表 3 に示す他社製ソフトウェアは、Sun StorEdge 6920 システムへのデータパスまたはネットワーク接続を持つデータホストで使用するための互換性があります。

表 3 サポートされる他社製ソフトウェア

ソフトウェア	バージョン
VERITAS NetBackup Server	5.0 以上
VERITAS NetBackup Enterprise Server	5.0 以上
VERITAS Volume Manager with Dynamic Multipathing (DMP) for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS File System (VxFS) for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS Volume Replicator for Solaris	3.5、4.0、および 4.1
VERITAS Cluster Server (VCS)	3.5、4.0、および 4.1
Legato NetWorker®	7.1 以上

VERITAS 製品の現在のハードウェア互換性については、次の Web サイトを参照してください。

<http://support.veritas.com/>

# サポートされるファイバチャネルスイッチ、 HBA、データホスト、およびオペレーティングシ ステム

Sun StorEdge 6920 システムは、Sun StorEdge SAN Foundation ソフトウェアの version 4.4 (以上) でサポートされているすべてのファイバチャネル (FC) スイッチ、ホストバスアダプタ (HBA)、データホスト、およびオペレーティングシステムをサポートします。詳細については、ご購入先にお問い合わせください。

## サポートされる言語

Sun StorEdge 6920 システムソフトウェア Release 3.2 は、表 4 に示す言語とロケールをサポートしています。

表 4 サポートされる言語およびロケール

言語	ロケール
英語	en
フランス語	fr
日本語	ja
韓国語	ko
簡体字中国語	zh
繁体字中国語	zh_TW

### 注 -

- マニュアルページは、英語版と日本語版のみです。
- このリリースではオンラインヘルプは翻訳されていません。ローカライズ版 GUI では、英語版のオンラインヘルプが表示されます。前述の言語のローカライズ版が必要な場合は、Sun の顧客サービスにお問い合わせください。
- 電子メール通知のローカライズ版はこのリリースでサポートされていません。

---

# Release 3.2 へのアップグレード

このアップグレードは、Sun の顧客サービスの技術者が行う必要があります。インストールまたは Release 3.2 へのアップグレードを行う場合は、Sun の顧客サービスに連絡してください。

## サポートされているアップグレードパス

表 5 サポートされているアップグレードパス

以前のバージョン	サポート
3.0.1.13	なし
3.0.1.22	あり
3.0.1.23	なし
3.0.1.25	なし
3.0.1.26	あり

---

## システム利用上の制限

表 6 に、Sun StorEdge 6920 システムの要素の最大値を示します。

表 6 Sun StorEdge 6920 システムの制限

システム属性	最大
システムあたりのボリューム	1024 個のボリューム
トレイあたりの仮想ディスク	2 個の仮想ディスク
仮想ディスクあたりのボリューム	32 個のボリューム
ミラー化ボリューム	128 個 (256 個のミラー化コンポーネント)
ミラー内のコンポーネント	一次ボリュームを含めて 4 個
旧式ボリューム	128
ボリュームあたりのスナップショット	8 個のスナップショット

表 6 Sun StorEdge 6920 システムの制限 (続き)

システム属性	最大
拡張時のスナップショットリザーブ空間	最大 31 倍
事前定義されたプロファイル	15
システムあたりのイニシエータ*	256 個のイニシエータ
DSP ポートあたりのイニシエータ	128
ストレージプール	64 個のストレージプール
ストレージプロファイル	15 個のシステム定義ストレージプロファイル、ユーザー定義プロファイルは無制限

\* 「イニシエータ」という用語は、Sun StorEdge 6920 システムによって認識される「イニシエータインスタンス」を意味します。データホスト側の HBA ポートが「N」個のポートを認識する場合、システムは「N」個のイニシエータを認識します。256 個のイニシエータの制限のために、デュアルバスデータホストは最大 128 になります。この場合、各データホストの HBA ポートは、システムの 1 つのポートを認識できます。

## リリースのマニュアル

表 7 および表 8 は、Sun StorEdge 6920 システム関連のマニュアル一覧です。マニュアルの Part No. の末尾に *nn* が付いている場合は、最新版を使用してください。

次の Web サイトでマニュアルを検索できます。

- <http://www.sun.com/documentation>
- <http://docs.sun.com>

表 7 Sun StorEdge 6920 システムのマニュアル

内容	タイトル	Part No.
輸送用コンテナに貼付されている開梱指図書	Unpacking Guide	816-6385- <i>nn</i>
CLI クイックリファレンス	Sun StorEdge 6920 System <i>sscs</i> (1M) CLI Quick Reference Card	817-5228- <i>nn</i>
システム計画について	Sun StorEdge 6920 システム サイト計画の手引き	819-2864- <i>nn</i>
システム計画について	Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き Release 3.0	819-2859-10
管理	Sun StorEdge 6920 System Administration Guide For the Browser Interface Management Software, Release 3.0	819-0123-10

表 7 Sun StorEdge 6920 システムのマニュアル (続き)

内容	タイトル	Part No.
システムの規制および安全対策について	Sun StorEdge 6920 Series Regulatory and Safety Compliance Manual	819-0119- <i>nn</i>
初期設定と操作手順の簡単な説明	Sun StorEdge 6920 システムご使用の手引き	819-2859- <i>nn</i>
推奨される方法	Best Practices for Sun StorEdge 6920 System (Version 3.0)	819-0122- <i>nn</i>

システムの概要情報やシステム構成、保守、障害追跡の基礎情報は、ソフトウェアに付属しているオンラインヘルプに記載されています。また、*sscs(1M)* のマニュアルページには、コマンド行インタフェース (CLI) を使ったストレージ管理に使用するコマンドに関する説明があります。

表 8 Sun StorEdge 6920 システムに関連するマニュアル

製品	タイトル	Part No.
Sun Storage Automated Diagnostic Environment, Enterprise Edition	Sun StorEdge Automated Diagnostic Environment Enterprise Edition Version 2.4 ご使用にあたって	819-1233- <i>nn</i>
SAN Foundation ソフトウェア	Sun StorEdge SAN Foundation 4.4 Configuration Guide	817-3672- <i>nn</i>
Oracle Storage Compatibility Program	Sun StorEdge Data Snapshot Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3326- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Data Mirroring Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3327- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Data Replication Software With Oracle Databases Usage Guide	819-3328- <i>nn</i>
Sun Storage Traffic Manager ソフトウェア	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Release Notes for HP-UX, IBM AIX, Microsoft Windows 2000 and 2003, and Red Hat Enterprise Linux	817-6275- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software User's Guide for IBM AIX, HP-UX, Microsoft Windows 2000 and 2003, and Red Hat Enterprise Linux	817-6270- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for Red Hat Enterprise Linux	817-6271- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for Microsoft Windows 2000 and 2003	817-6272- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for IBM AIX	817-6273- <i>nn</i>

表 8 Sun StorEdge 6920 システムに関連するマニュアル (続き)

製品	タイトル	Part No.
	Sun StorEdge Traffic Manager 4.4 Software Installation Guide for HP-UX 11.0 and 11i	817-6274- <i>nn</i>
Sun StorEdge ネットワーク ファイバチャネルスイッチ 8 およびスイッチ 16	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-8 および Switch-16 FRU 取り付けマニュアル	817-3230- <i>nn</i>
	Sun StorEdge 6920 System Administration Guide for the Browser Interface Management Software	819-0123- <i>nn</i>
	Sun StorEdge 6920 System Hardware Quick Setup poster	817-5226- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-8 および Switch-16 ご 使用にあたって	817-3232- <i>nn</i>
	Sun StorEdge Network 2 Gb FC Switch-64 Release Notes	817-0977- <i>nn</i>
Sun StorEdge Brocade スイッ チのマニュアル	Sun StorEdge Network 2 Gb Brocade SilkWorm 3200/3800/12000 3.1/4.1 ファームウェアマニュアルの概要	817-3239- <i>nn</i>
Sun StorEdge McData スイッ チのマニュアル	Sun StorEdge Network 2 Gb McDATA Intrepid 6064 Director マニュアルの概要 (ファームウェア 5.01.00 を含む)	817-3228- <i>nn</i>
拡張キャビネット	Sun StorEdge Expansion Cabinet Installation and Service Manual	805-3067- <i>nn</i>
ストレージサービスプロセッ サ	Sun Fire V210 および V240 サーバ管理マニュアル	817-1441- <i>nn</i>
Solaris オペレーティングシス テム	Sun 周辺機器使用の手引き	816-4631- <i>nn</i>

## Release 3.2 の既知の問題

この節では、Release 3.2 に関する既知の注意事項について説明します。

### 6920 への接続に使用するファイバチャネルホストポートは、6140 アレイコントローラ 1 つにつき 1 つだけである

6920 アレイの仮想ディスク用のパスは、いずれも 2 つだけに制限されています。  
6140 アレイコントローラの複数のポートが 6920 アレイに接続されていると、この制  
限に違反します。コントローラごとに 1 つのポートだけを接続してください。

## データサービスプラットフォームのファンの交換

データサービスプラットフォーム (DSP) のファンは、FRU (現場交換可能ユニット) です。ファンを取り外す場合は、次の点に注意してください。



---

**注意** - ファンには、保護されていないファンブレードがあり、取り外し時にまだ回転している可能性があります。ファンをキャビネットから取り外す前に、ファンブレードの動きが完全に止まっていることを確認してください。

---

## 電子メール通知受信者のメッセージ優先度設定

電子メール通知受信者の追加または編集時に「優先度」パラメータを「すべて」に設定すると、操作の必要のない一般的なメッセージも含めて、受信者はシステムで発生するすべてのイベントのメッセージを受信するようになります。

操作の必要なイベントおよびアラームに対する通知メッセージのみを生成するには、「優先度」パラメータを「メジャー以上」または「クリティカル以上」に設定します。

## リモート複製、ホスト接続、単一コントローラ

**バグ 6493606** - リモート複製をサポートするコントローラを1つのポートに接続し、ホスト接続をほかのポートに接続すると問題が発生します。

**回避策** - リモート複製が構成されているコントローラと同じコントローラにホストを接続しないでください。

## Release 3.2 に該当しないその他の既知の問題

### アレイのアップグレードの問題

アレイのファームウェアのアップグレード時に PatchPro がタイムアウトすると、ときどき問題が発生することがあります。データパス動作には影響ありませんが、アップグレードログにパッチのインストールに失敗したと示されます。現在、この問題は多数のアレイを持つ大容量システムだけで確認されています。

---

## ソフトウェアの問題点

次の各節では、今回の製品に関するソフトウェアの問題点 (バグ) を説明します。

- 12 ページの「構成および要素管理ソフトウェア」
- 13 ページの「データサービスプラットフォームのファームウェア」
- 13 ページの「Storage Automated Diagnostic Environment」
- 16 ページの「その他」

有効な推奨回避策がある場合は、バグの説明の次に示されています。

### 構成および要素管理ソフトウェア

この節では、構成管理ソフトウェアのブラウザインタフェースに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

#### CLI を使用して複製モードを非同期から同期に変更し、非同期に戻すと、キューサイズがデフォルトの 512M バイトになる

**バグ 6357963** - コマンド行インタフェース (CLI) を使用して非同期複製セットを非同期モードから同期モードに設定し、非同期に戻すと次のエラーが表示されます。

```
You cannot decrease the size of the virtual disk queue without first deleting it
```

同じ非同期複製セットを、ブラウザインタフェースを使用して変更しても、エラーは発生しません。ブラウザインタフェースは元のキューサイズを使用するのに対して、CLI ではキューサイズがデフォルトの 512M バイトになるからです。

**回避策** - 非同期複製セットを非同期モードから同期モードに変更し、非同期モードに戻す場合は、ブラウザインタフェースを使用してください。

## 新しいミラー化ボリュームの作成時にシステムの処理時間が長くなる

**バグ 6256116** - 「新規ボリューム」ウィザードを使用して新しいミラー化ボリュームを作成し、同時にそのボリュームをイニシエータにマップすると、システムの処理に時間がかかることがあります。

**回避策** - ミラー化ボリュームを作成するプール内の仮想ディスク数を 32 に制限します。

## データサービスプラットフォームのファームウェア

この節では、データサービスプラットフォーム (DSP) のファームウェアに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

### 切断したローカルミラーボリュームのロールバック後に表示される進行状況が間違っている

**バグ 6360303** - 接続を切断したローカルミラーボリュームのロールバック後にシステムに表示される進行状況が間違っています。進行状況の 0 から 100% は、個々のパーティションではなく、ボリュームに関するものです。ロールバックが完了したとき、ボリュームの状態は「ロールバック中」ではなくなるので、ロールバックの完了率は 0% と表示されます。

**回避策** - 処理が完了するまで、完了した割合を示すメッセージは無視してください。

## Storage Automated Diagnostic Environment

この節では、Storage Automated Diagnostic Environment アプリケーションに関連する既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

---

**注** - スタンバイスイッチファブリックカード (SFC) を交換した場合、再読み込みの完了時にカードが正しくスタンバイモードに戻った場合でも、対処可能なイベントが発生することがあります。

---

## リモート複製を手動で中断すると、障害管理でメジャーアラームが生成される

バグ 6327537 - イベントコード 30.20.149 のアラームが発生したら、ローカルサイトとリモートサイトの両方のシステム管理者に報告し、この動作を想定していたかどうかを確認してください。想定外の場合は、Sun StorageTek の顧客サービスにご連絡ください。

## 障害管理でキューのパフォーマンスページに適切な情報が表示されない

バグ 6418306 - 整合性グループを使用しているときに、障害管理システムからグローバルアクセスログに統計情報が報告されません。整合性グループ内のすべてのセットで同じグローバルアクセスログが使用されますが、統計情報が報告されません。

回避策 - 整合性グループ内の任意のボリュームのキューの統計情報を確認します。

## ソリューション抽出が原因で間違ったイベントコードとメッセージが生成される

バグ 6408258 - ソリューション抽出を実行すると、障害管理システムによってイベントコード 30.20.149 「Potential missing or unmounted MIC slave PC CARD.」が送信されます。ソリューション抽出を実行する前にシステムによってエラーが報告されていなかった場合、これは間違ったメッセージです。

回避策 - メッセージを無視してください。

## 一部のイベントログメッセージで、ポートがシステムポート ID ではなく物理ポート ID で識別される

**バグ 6312185** - 一部のイベントログメッセージで、システムポートに 0x1040001 などの物理ポート ID がラベルとして表示されます。次に例を示します。

```
Aug 16 12:08:10 dsp00 08/16/2005 12:13:29 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link down on port 0x1040001
Aug 16 12:08:14 dsp00 08/16/2005 12:13:33 LOG_WARNING (ISP4XXX: 1-4) Gig
Ethernet received link up on port 0x1040001
```

これは、「Port Up」や「Port Down」などの一部のイベントログメッセージには、すでにシステムポート ID が関連付けられているからです。

ポートには、システムポート ID がラベルとして表示されるべきです。次に例を示します。

```
11/18/2005 09:31:30 LOG_INFO (Proc: 3-2) Port 3/4 is UP
11/18/2005 09:31:37 LOG_INFO (Proc: 4-2) Port 4/4 is DOWN
```

**回避策** - 次のアルゴリズムを使用し、物理ポート ID をシステムポート ID に変換してください。

物理ポート =  $0xSOP000p$

システムポート =  $S / ((P - 1) \times 2) + p$

ここで、

S = ボードのスロット番号 (1、2、3、または 4)

P = プロセッサ番号 (1、2、3、または 4)

p = そのプロセッサのポート番号 (1 または 2)

例:

```
物理ポート 0x2010001 = システムポート 2/1
物理ポート 0x2010002 = システムポート 2/2
物理ポート 0x2020001 = システムポート 2/3
物理ポート 0x3040002 = システムポート 3/8
物理ポート 0x4030001 = システムポート 4/5
```

## その他

この節では、Sun StorEdge 6920 システムに関連するその他の既知の注意事項と問題点 (バグ) を説明します。

### 自動同期がオンでないと IP 複製の設定で不具合が発生する

**バグ 6509629** - 自動同期をオンにせずに IP 複製を設定すると、現実的ではない複製のソリューションが提案されます。その結果、セットがしばらく中断されます。

**回避策** - 次のいずれかの操作を行います。

- 操作の前に自動同期がオンになっていることを確認します。
- この問題が発生したあとにシステムを手動で同期させることができます。ただし、これは通常の運用時にはお勧めできません。手動同期は、次のいずれかの方法で開始できます。
  - 「詳細」ページの「再開」ボタンをクリックして手動同期操作を開始できます。
  - 次の CLI コマンドで操作を開始することもできます。「`sscs modify --resume <--full> --sdomain <domain_name> repset <repset_name>`」。整合性グループの場合は次のコマンドを使用します。

```
「sscs modify --resume <--full> --sdomain <domain_name> --sdomain  
<domain_name> constgroup <group_name>」
```

### OPIE セキュリティーチャレンジが原因でソリューション抽出で SCS を取得できない

**バグ 6500365** - OPIE (One-Time Password in Everything) セキュリティーが有効になっているときに、お客様の構成のソリューション抽出に SCS データ収集が含まれません。

**回避策** - SSRR はすでに有効になっているので、必要な場合は、Sun サービスがシステムにダイヤルインし、SCS 情報を手動で取得できます。

## 不良ディスクドライブの交換後に 6920 システムにストレージを追加できない

バグ 6427492 - 不良ディスクドライブの交換後、ストレージプールにストレージを追加できません。次のエラーが発生します。

```
「Could not find Product class for this disk」
```

次に例を示します。

```
/var/log/webconsole/se6920ui.log 2006-05-18 10:55:40,560  
[HttpProcessor[6789][3]] ERROR  
com.sun.netstorage.array.mgmt.cfg.mgmt.business.impl.mr3.Disk -  
loadDiskProperties:Could not find Product class for this disk.
```

回避策 - この問題を解決するには、システム内のデバイスを再走査する必要があります。再走査には、次の 2 通りの方法があります。

CLI: sscs CLI コマンド `sscs rescan system` を使用します。

GUI: 「外部ストレージ」 ページの 「デバイスを再走査」 ボタンを使用します。

## フレーム切り替えでページ読み込みインジケータの表示が異なる

バグ 6377042 - ブラウザによって、ページ読み込みインジケータの表示が異なります。

Firefox: 実際のページ読み込みが完了する前に、アニメーションとステータスバーが完了状態を示します。ただし、ページが完全に読み込まれるまで、カーソルは処理中の状態を示します。

Internet Explorer: フレームがすべて読み込まれるまで、ステータスバーに 「ページ `https://..` を開いています...」 と表示されます。また、ページが完全に読み込まれるまで、カーソルは処理中の状態を示しません。

## config\_solution スクリプトを使用して setgid コマンドを実行すると失敗する

**バグ 6283274** - Release 2.0.x から 3.0.x への移行中に t4\_rnid\_cfg スクリプトを実行した場合、setgid コマンドで -I スイッチは許可されていません。

**回避策** - /usr/local/bin/t4\_rnid\_cfg ファイルの最初の行を編集します。編集前の行は次のとおりです。

```
#!/usr/bin/perl -I/usr/local/lib/perl5 -- # -*-Perl-*-  
#  
# t4_rnid_cfg.pl -- script to configure T4 RNID parameters
```

この行を次のように編集します。

```
#!/opt/SUNWstade/bin/perl -U use lib "/usr/local/lib/perl5";
```

このあとで、config\_solution スクリプトを再実行してください。

## ローカルミラーの作成時にプール内の仮想ディスク数が制限される

**バグ 6256116** - ローカルミラーを作成する場合、64 の仮想ディスクがあるプールからボリュームを作成できません。

**回避策** - ローカルミラーの作成に使用するプール内で 32 を超える仮想ディスクを使用しないでください。

## オフラインイニシエータにマッピングするときに誤ったエラーメッセージが表示される

**バグ 6353863** - オフラインイニシエータへのマッピングを作成するとき、マッピングに失敗したというメッセージが表示されます。しかし、ボリュームのマッピングを確認すると、マッピングは正常に完了しています。

内部論理では、サーバーを検出したすべてのポートなど、サーバーのすべてのインスタンスにマッピングしようとしています。1つのマッピングに失敗すると、ほかのマッピングが正常に完了していても、マッピングの状態は失敗と表示されます。したがって、オフラインインスタンスへのマッピングが失敗したように見えます。

**回避策** - 処理は正常に完了しているので、マッピングは「失敗」していません。誤ったエラーメッセージを無視してください。

## ホストチャネルポート 1 と外部ストレージ

バグ 6511687 - 6140 アレイを 6920 の外部ストレージとして使用する場合、ホストチャネルポート 1 だけを使用できます。6140 アレイのその他のホストチャネルポートはどのデバイスにも接続しないでください。

### 1 Gbps の PCI Dual FC Host Adapter+ を、SAN 4.4.9 が動作する 6920 に直接接続できない

バグ 6565798 - 1 Gbps の PCI Dual FC Host Adapter+ を、SAN 4.4.9 以降が動作する 6920 に直接接続すると問題が発生します。

回避策 - 1 Gbps の PCI Dual FC Host Adapter+ を直接接続しない場合は、SAN 4.4.x の任意のバージョンを使用できます。たとえば、スイッチを経由して 6920 を接続する場合は、SAN 4.4.9 が動作する 1 Gbps の PCI Dual FC Host Adapter+ を使用できます。Crystal Plus HBA を直接接続する場合は、SAN 4.4.8 以前が正常に動作します。その他の HBA を直接接続する場合も、この問題は発生しません。1 Gbps の PCI Dual FC Host Adapter+ を 2 Gbps にアップグレードすることも可能で、これも正常に動作します。

## 実在しない LUN と旧式外部デュアルパスストレージ

バグ 6389694 - 旧式外部ストレージがデュアルパス構成の場合に、実在しない LUN が表示されることがあります。たとえば、実際には LUN が 8 個だけ構成されているときに、構成サービスデータベースに 16 個の LUN が表示される場合があります。

回避策 - 次のコマンドを入力して要素マネージャーを停止します。

```
/etc/init.d/init.se6000 stop
```

要素マネージャーを再起動します。

```
/etc/init.d/init.se6000 start
```

要素マネージャーを再起動しても問題が解決しない場合は、次のコマンドを入力してサービスプロセッサを再起動し、要素マネージャーも再起動します。

```
reboot
```

## ミラーコンポーネントを失うと、ミラーが分割される

バグ 6472491 - ローカルミラー構成内のコンポーネントを削除すると、GUI と CLI でミラーコンポーネントが削除された则表示されます。コンポーネントは「通信断」と表示され、ボリュームは存在しないと認識され表示されない可能性があります。

回避策 - DSP を再起動すると、問題が解決する場合があります。

ミラーの修復を試みます。これで問題が解決し、すべてのボリュームの情報が正しく表示されるかどうかは、ミラーコンポーネントの状況によって異なります。分割ミラーコンポーネントをミラーに再結合するには、次の手順に従います。

1. 「Sun StorEdge Configuration Manager」をクリックします。

「ボリュームの概要」ページとナビゲーション区画が表示されます。「ボリュームの概要」ページは、「論理ストレージ」>「ボリューム」を選択していつでも表示できます。

2. ミラーに戻したい分割コンポーネントがあるミラー化ボリュームをクリックします。

「ミラー化ボリュームの詳細」ページが表示されます。

3. このページの「ミラー」セクションで、再結合する分割コンポーネントの左側のラジオボタンをクリックします。コンディションの状態が「正常」、「分割ボリューム」になります。

「再結合」をクリックします。

確認メッセージと「ミラー化ボリュームの詳細」ページが表示されます。再結合プロセスの間、コンポーネントの状態は「再同期化処理中」と表示されます。再同期化プロセスが完了すると、「ミラー」セクションが更新され、コンポーネントが 100% 再同期化済みで、コンディションが「正常」と表示されます。

---

## 既知のマニュアルの注意事項

次の項目では、マニュアルに関する既知の注意事項について説明します。

- 21 ページの「一般的なマニュアルの注意事項」
- 25 ページの「国際化」
- 25 ページの「システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正」
- 27 ページの「『Best Practices Guide』の訂正」
- 28 ページの「sscs CLI のマニュアルページの追加」

## 一般的なマニュアルの注意事項

### iSCSI と FC での MPxIO の設定についてユーザーマニュアルで説明されていない

**バグ 6485986** - iSCSI でターゲット (MPxIO) に複数の iSCSI セッションを設定する方法を次に示します。

この手順は、単一のターゲットに接続する複数の iSCSI セッションを作成するときに使用できます。このシナリオは、ログインのリダイレクトをサポートするか、同じターゲットポータルグループに複数のターゲットポータルがある iSCSI ターゲットデバイスに便利です。ターゲットあたりの複数 iSCSI セッションのサポートは、Solaris SCSI Multipathing (MPxIO) と組み合わせて使用する必要があります。

1. スーパーユーザーになります。
2. iSCSI のイニシエータとターゲットの現在のパラメータを確認します。
  - a. iSCSI のイニシエータの現在のパラメータを確認します。次に例を示します。

```
# iscsiadm list initiator-node
Initiator node name: iqn.1986-03.com.sun:01:0003ba4d233b.425c293c
Initiator node alias: zzr1200
Configured Sessions: 1
```

- b. iSCSI のターゲットデバイスの現在のパラメータを確認します。次に例を示します。

```
# iscsiadm list target-param -v iqn.1992-08.com.abcstorage:sn.84186266
Target: iqn.1992-08.com.abcstorage:sn.84186266
```

Alias: -

Configured Sessions: 1

「Configured Sessions」の値は、ターゲットポータルグループ内のターゲット名ごとに作成される、設定済みの iSCSI セッション数です。

3. 次のいずれかを選択します。設定済みのセッション数をイニシエータノードで変更してすべてのターゲットに適用するか、ターゲットレベルで変更して特定のターゲットに適用します。

ターゲットあたりのセッション数は 1 ～ 4 の範囲内である必要があります。

- パラメータを iSCSI イニシエータノードに適用します。

次に例を示します。

```
# iscsiadm modify initiator-node -c 2
```

- パラメータを iSCSI ターゲットに適用します。

次に例を示します。

```
# iscsiadm modify target-param -c 2 iqn.1992-08.com.abcstorage:sn.84186266
```

設定済みのセッションは、特定のローカル IP アドレスにバインドすることもできます。この方法では、1 つまたは複数のローカル IP アドレスをコンマ区切りリストで指定します。IP アドレスはそれぞれ 1 つの iSCSI セッションを表します。この方法も、イニシエータノードまたはターゲットパラメータレベルで実行できます。次に例を示します。

```
# iscsiadm modify initiator-node -c 10.0.0.1,10.0.0.2
```

---

**注** – 指定した IP アドレスの経路指定が不可能な場合は、アドレスは無視され、デフォルトの Solaris 経路と IP アドレスがこのセッションに使用されます。

---

4. パラメータが変更されたことを確認します。

- a. イニシエータノードの更新された情報を表示します。次に例を示します。

```
# iscsiadm list initiator-node
```

```
Initiator node name: iqn.1986-03.com.sun:01:0003ba4d233b.425c293c
```

```
Initiator node alias: zzr1200
```

```
Configured Sessions: 2
```

- b. ターゲットノードの更新された情報を表示します。次に例を示します。

```
# iscsiadm list target-param -v iqn.1992-
```

```
08.com.abcstorage:sn.84186266
```

```
Target: iqn.1992-08.com.abcstorage:sn.84186266
```

```
Alias: -
```

Configured Sessions: 2

FC ドライブで MPxIO を設定する手順は次のとおりです。

### 1. スーパーユーザーでログインします。

マルチパスソフトウェアで制御する HBA コントローラのポートを指定します。たとえば、デバイスを選択するには、`/dev/fc` に対して `ls -l` コマンドを実行します。 `ls -l` コマンドの出力例を次に示します。

```
lrwxrwxrwx 1 root root          49 Apr 17 18:14 fp0 ->
../../../../devices/pci@6,2000/SUNW,qlc@2/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          49 Apr 17 18:14 fp1 ->
../../../../devices/pci@7,2000/SUNW,qlc@2/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          49 Apr 17 18:14 fp2 ->
../../../../devices/pci@a,2000/SUNW,qlc@2/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          49 Apr 17 18:14 fp3 ->
../../../../devices/pci@b,2000/SUNW,qlc@2/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          50 Apr 17 18:14 fp4 ->
../../../../devices/pci@12,2000/SUNW,qlc@2/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          56 Apr 17 18:14 fp5 ->
../../../../devices/pci@13,2000/pci@2/SUNW,qlc@4/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          56 Apr 17 18:14 fp6 ->
../../../../devices/pci@13,2000/pci@2/SUNW,qlc@5/fp@0,0:devctl
lrwxrwxrwx 1 root root          56 Apr 17 18:14 fp7 ->
../../../../devices/sbus@7,0/SUNW,qlc@0,30400/fp@0,0:devctl
```

---

注 – fp7 は SBus HBA です。fp5 と fp6 には 2 つの `/pci` 要素が含まれます。これはデュアル PCI の HBA を示します。残りのエントリには追加の PCI ブリッジがないので、単一 PCI の HBA です。

---

2. `/kernel/drv/fp.conf` ファイルを開き、HBA コントローラポートのマルチパス機能を明示的に有効または無効にします。このファイルでは、グローバルマルチパス設定と、特定ポートのマルチパス設定の両方を有効または無効にできます。
3. グローバル `mpxio-disable` プロパティの値を変更します。エントリがない場合は、新しいエントリを追加します。グローバル設定は、ポートごとのエントリで指定したポートを除くすべてのポートに適用されます。
  - a. マルチパス機能をグローバルに有効にするには、次のように変更します。

```
mpxio-disable="no";
```
  - b. マルチパス機能をグローバルに無効にするには、次のように変更します。

```
mpxio-disable="yes";
```

4. ポートごとの mpxio-disable エントリを追加します。つまり、設定する HBA コントローラポートごとに 1 つのエントリを追加します。ポートごとの設定は、指定ポートのグローバル設定に優先します。

- a. HBA ポートのマルチパス機能を有効にするには、次のエントリを追加します。

```
name="fp" parent="parent name" port=port-number mpxio-disable="no";
```

- b. HBA ポートのマルチパス機能を無効にするには、次のエントリを追加します。

```
name="fp" parent="parent name" port=port-number mpxio-disable="yes";
```

5. 次の例は、2 つの指定ポートを除くすべての HBA コントローラポートでマルチパス機能を無効にします。

```
mpxio-disable="yes";
```

```
name="fp" parent="/pci@6,2000/SUNW,qlc@2" port=0 mpxio-disable="no";
```

```
name="fp" parent="/pci@13,2000/pci@2/SUNW,qlc@5" port=0 mpxio-disable="no";
```

6. SPARC 版システムの場合は、次のコマンドを実行します。

```
Run the stmsboot -u command:
```

```
# stmsboot -u
```

```
WARNING: This operation will require a reboot.
```

```
Do you want to continue? [y/n] (default: y) y
```

```
The changes will come into effect after rebooting the system.
```

```
Reboot the system now ? [y/n] (default: y) y
```

再起動を求めるメッセージが表示されます。再起動時に、デバイス名の変更を反映して、`/etc/vfstab` とダンプ設定が更新されます。

x86 版システムの場合は、再構成付き再起動を実行します。

```
# touch /reconfigure
```

```
# shutdown -g0 -y -i6
```

7. 必要な場合は、デバイス名を更新します。方法については、「Device Name Change Considerations」を参照してください。

# 国際化

## StorADE のローカライズ版オンラインヘルプにリンク切れがある

バグ 6556476 - 切れているリンクを表示するには、目次、索引、または検索機能を使用して、表示するページを選択してください。

## システム管理ガイドとオンラインヘルプの訂正

この節の訂正事項は、『Sun StorEdge 6920 System Administration Guide』(Part No. 819-0123-10) とオンラインヘルプの両方に適用されます。

### 完全停止後のシステム復元

この手順が変更されました。『Sun StorEdge 6920 System Administration Guide』内の既存の手順を、次の手順に置き換えてください。

完全停止手順による電源切断後にシステムを復元するには、システムの設置場所で次の手順に従う必要があります。

1. ベースキャビネットとすべての拡張キャビネットの前面と背面のドアを開きます。
2. それぞれのキャビネットから、前面の飾りパネルを取り外します。
3. AC 電源ケーブルが、正しい AC コンセントに接続されていることを確認します。
4. 各キャビネットの前面下部および背面下部で、AC 電源シーケンサの回路遮断器を下げてオンにします。

前面と背面の両方の電源ステータス発光ダイオード (LED) が次の順序で点灯し、前面の電源シーケンサのステータスが表示されます。

- 主 AC 電源 LED (キャビネットに電源が供給されると点灯)
- Sequencer Stage 1
- Sequencer Stage 2

---

注 - 各コンポーネントが完全に起動するのを待ってから、次のコンポーネントの電源を投入する必要があります。

---

5. ストレージアレイの電源を投入します。



---

**注意** – ストレージアレイが完全に起動する前に DSP の電源を投入すると、システムはストレージボリュームを認識できず、接続されていないと誤ってレポートします。

---

6. データサービスプラットフォーム (DSP) の電源を投入します。
7. システムの背面にあるストレージサービスプロセッサの電源スイッチを押してオンにします。
8. すべてのコンポーネントで、緑の LED だけが点灯していることを確認します。
9. 前面の飾りパネルを取り付け、すべてのドアを閉じます。  
これでシステムが動作し、リモートで電源をオンにする手順をサポートできるようになります。

## 整合性グループ内での複製セットの合成

この手順が変更されました。現在の手順を、次の手順に変更してください。

多数の複製セットを作成済みで、それらを整合性グループに含める場合は、次の手順例に従って行なってください。この例では、複製セット A および複製セット B が独立した複製セットとして存在しています。一次ピアと二次ピアの両方で、次の手順に従ってください。

1. 複製セット A および B と同じストレージドメイン内に一時ボリュームを作成するか、未使用のボリュームを探します。
2. リモートピアの WWN (World Wide Name) を調べます。  
この情報は、どちらかの複製セットの「詳細」ページにあります。
3. 複製セット C を作成する一時ボリュームまたは未使用ボリュームを選択し、そのボリュームの「詳細」ページで「複製セットの作成」ウィザードを起動します。  
複製セット C を作成するのは、整合性グループを作成するためです。この複製セットは、あとの手順で削除します。
4. 「複製セットの作成」ウィザードで次のことを行います。
  - a. 複製セットを作成するための一時ボリュームまたは未使用ボリュームを選択します。
  - b. 「複製ピアの WWN」フィールドにリモートシステムの WWN を入力します。
  - c. 「リモートボリュームの WWN」フィールドには、すべてゼロを入力します。次に、「次へ」をクリックします。
  - d. 「整合性グループの新規作成」オプションを選択し、整合性グループ G の名前と説明を入力します。「次へ」をクリックします。

- e. 問い合わせに対して複製属性と複製ビットマップを指定し、選択内容を確認し、「終了」をクリックします。
5. 複製セット A の「詳細」ページで「グループに追加」をクリックし、複製セットを整合性グループ G に追加します。
6. 複製セット B の「詳細」ページで「グループに追加」をクリックし、複製セットを整合性グループ G に追加します。
7. 複製セット C の「詳細」ページで「削除」をクリックし、複製セットを整合性グループ G から削除します。

複製セット A および複製セット B が独立したものではなくなり、整合性グループの一部になりました。

## オンラインヘルプに「マッピングの状態」という列についての説明がない

バグ 6432516 - オンラインヘルプに、マッピング状態に関する次の説明が必要です。

マッピングの状態 - 6920 とホスト間の既知のパスすべての状態に関する概要。

## 『Best Practices Guide』の訂正

この節では、『Best Practices for the Sun StorEdge 6920 System』 (Part No.819-3325-10) の訂正および追加内容について説明します。

### リモート複製

この内容が変更されました。現在の節を、次の内容に変更してください。

Sun StorEdge 6920 システムの Release 3.0.1 では、リモートデータ複製のサポートが追加されました。この機能を使用すると、ボリュームのデータを二次ストレージデバイスへ連続してコピーできます。この二次ストレージデバイスは、元の (一次) ストレージデバイスから離れた場所に設置してください。一次ストレージデバイスで障害が発生した場合は、二次ストレージデバイスが即座に一次デバイスになり、オンラインになります。

複製プロセスでは、最初に障害回復サイトにある二次ストレージデバイス上に、一次データの完全なコピーが作成されます。複製プロセスでは、このコピーを基礎としてデータの変更がすべて記録され、変更内容が二次サイトに転送されます。

適切なセキュリティーの設定方法については、CSO (Client Solutions Organization) までお問い合わせください。

## 外部ストレージの仮想ディスクへの接続が 3 つ以上あると、順次アップグレードおよび障害インジェクションに失敗する

バグ 6346360 - 『Best Practices for the Sun StorEdge 6920 System』に、次の制限事項を説明する必要があります。

ディスクに外部ストレージの仮想ディスクへ 3 つ以上の接続が設定されていると、順次アップグレードおよび障害インジェクションに失敗します。

## SSCS CLI のマニュアルページの追加

この節では、CLI のマニュアルページに追加される内容を示します。

### リモート複製用の TCP ウィンドウサイズの拡大

バグ 6481346 - 現在、CLI のマニュアルページには、リモート複製用に TCP ウィンドウサイズを拡大する `sscs` コマンドが含まれません。

リモート複製用に TCP ウィンドウサイズを拡大するには、次の `SSCS` コマンドを使用します。

```
modify etherport
```

```
modify -r <enable | disable> [ -g string ] [ -m string ] [ -l string ] [ -w  
< 1KB | 2KB | 4KB | 16KB | 32KB | 64KB | 128KB | 256KB | 512KB | 1MB > ]
```

```
etherport string
```

オプション

```
-r, --replication enable | disable
```

リモート複製機能を有効にします。

```
-g, --gateway string
```

リモート複製機能に使用するゲートウェイアドレスです。

```
-m, --network-mask string
```

ゲートウェイアドレスのネットワークマスクです。

```
-l, --local-address string
```

リモート複製データの送信先ローカル IP アドレスです。

-w, --window-size 1KB | 2KB | 4KB | 16KB | 32KB | 64KB | 128KB | 256KB | 512KB | 1MB

リモート複製に必要な TCP ウィンドウサイズです。

etherport string

リモート複製に使用する Ethernet ポートです。

---

## サービスに関する問い合わせ先

Sun StorEdge 6920 システムまたはその他の Sun 製品について追加の情報が必要な場合は、次の Web ページから Sun の顧客サービスに問い合わせてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

